

気象研究コンソーシアムにおける 気象庁データの提供について

気象研究所 笹川悠

水野 孝則

気象研究コンソーシアムとは

- 我が国における気象研究の発展、大学等における気象研究分野の人材育成、気象庁の気象業務の予測精度の向上を目的とした気象庁と日本気象学会の包括的な共同研究契約「気象庁データを利用した気象に関する研究」に基づく枠組。
- 参加資格：(社)日本気象学会員であること。
- 以下を含む研究内容
 - ✓ 数値予報モデルの改良、精度向上に関する研究
 - ✓ アンサンブル予測手法に関する研究
 - ✓ データ同化手法に関する研究
 - ✓ 気象についての解析・診断、及びメカニズム解明に関する研究
- 43課題が実施中(平成29年4月現在)

現在提供しているデータ

- 気象庁全球モデルのモデル面解析値 [全球解析]
- 気象庁メソモデルのモデル面解析値 [メソ解析]
- 週間アンサンブル予報値 [週間予報]
- 1か月アンサンブル予報値 [1ヶ月予報]
- 全球二酸化炭素濃度分布データ
- 全球海面水温解析値(速報値)
- 大気海洋結合モデルの「1か月予報ルーチンGPV」
- 大気海洋結合モデルの「1か月予報ハインドキャストGPV」
- 気象庁1か月予報ハインドキャスト実験データ
- 静止気象衛星ひまわりを用いた大気追跡風
- 静止気象衛星ひまわりを用いた高分解能雲情報

ソフト面 (提供データ拡充に向けた考え方)

気象研究コンソーシアムの趣旨:

- 日本の気象学が、世界の気象学研究をリードしていくためには、各研究機関と最先端の現業システムを持つ気象庁との連携が不可欠。
- 各研究機関がそれぞれ進めてきたデータ解析、数値モデル、データ同化、予測可能性などの研究に、気象庁が持つ豊富なデータや現業で培われたさまざまな技術を組織的に組み合わせることにより、より具体的で大きな研究成果が期待。

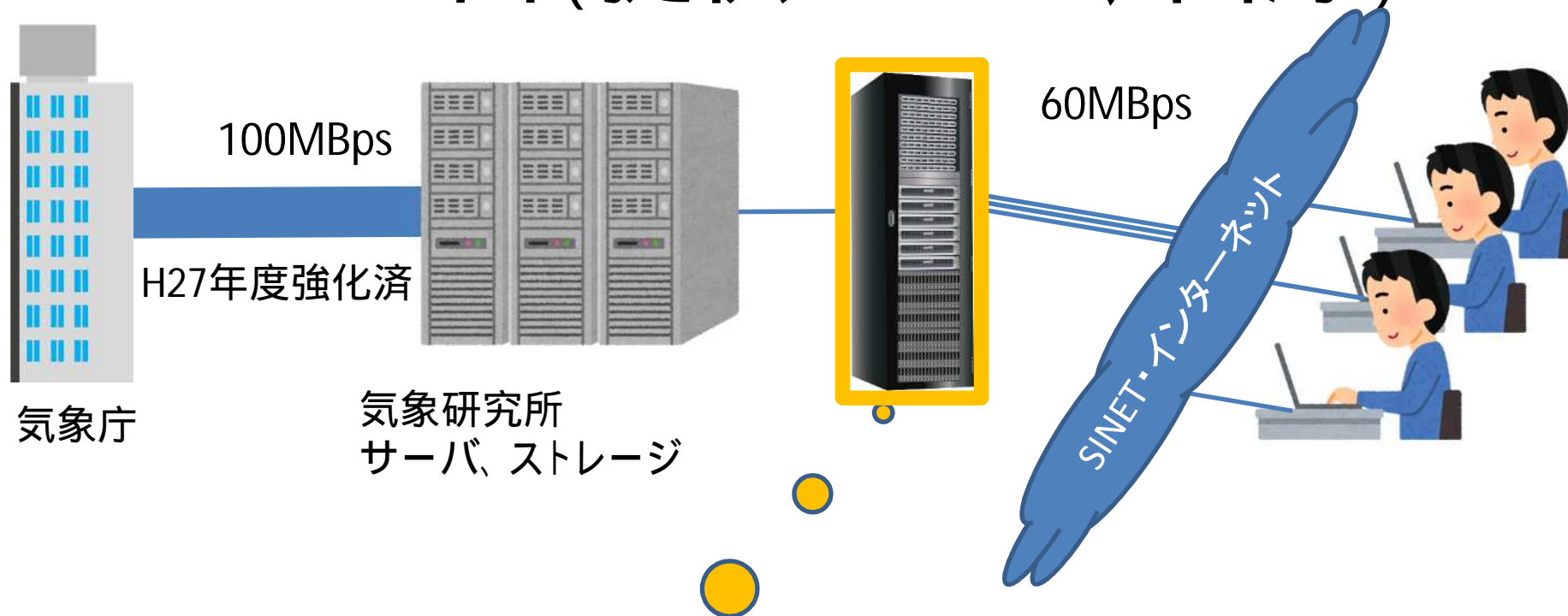
提供するデータに係る規定 (運営委員会規程 第7条)

運営委員会は、本共同研究を実施するために必要と認められるデータ及びその他の技術情報の範囲について、協議の上定める。

(政府の施策)

- オープンデータ、ビッグデータ (日本再興戦略、科学技術基本計画、…)
- 気象庁生産性革命

ハード面 (提供サーバ、回線)



現状：
コンソーシアム提供用サーバ、
ストレージ 約2TB

今後の検討

- ハードの確保
- ソフト面の検討
 - ✓ アーカイブ強化or提供データの種類増加
 - ✓ 提供データの選定方法
- 提供データの維持運営